

特集

自然の脅威 風水害に 備える！

これまでにない大洪水や大規模な干ばつが世界規模で発生、異常気象が社会の注目を集めています。わが国でも、雨の災害に一層注意が必要な状況になりつつあります。最近では、年間降水量こそ減少傾向にありますが集中豪雨の発生頻度が増えています。

平成10年8月、栃木県那須地方を集中豪雨が襲い那珂川が氾濫し、大きな被害をもたらしました。昨年も記録的な集中豪雨が九州地方に大きな被害をもたらしたばかりです。原因の一つとして地球温暖化の影響による世界的な気候変動だと考えられています。さらに、都市部では、ヒートアイランド現象による上昇気流が要因の一つに加わっていると言います。こうした、局所的に大量の雨が降るケースが増えており、台風を含め雨の災害には一層の注意が必要です。



●風の強さと被害

平均風速(m/s)	予報用語	想定される被害
10以上15未満	やや強い風	風に向かって歩みにくい。取り付け不完全な看板やトタン板が飛ぶ。
15以上20未満	強い風	風に向かって歩けない。ビニールハウスが壊れ始める。
20以上25未満	非常に強い風	しっかりと身体を確保しないと転倒する。飛来物でガラスが割れる。
25以上30未満		立ってられない。車の運転は危険。ブロック塀が壊れる。
30以上	猛烈な風	屋根が飛ばされる。木造住宅の全壊が始まる。

●雨の強さと被害

1時間雨量(mm)	予報用語	想定される被害
10以上20未満	やや強い雨	ザーザーと降る。雨の音で話し声がよく聞き取れない。
20以上30未満	強い雨	どしゃ降り。側溝や下水、小川があふれ、小規模な崖崩れが始まる。
30以上50未満	激しい雨	バケツをひっくり返した様に降り、道路が川のようになり、崖崩れが起こりやすい。
50以上80未満	非常に激しい雨	滝のように降り、土石流が起こりやすい。
80以上	猛烈な雨	大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

(気象庁資料)

危険は急激に迫ってきます！

風水害は、まだまだ大丈夫だと思っても、急激に状況が変化する場合があります。危険が迫ってからでは手遅れになることもあるので注意しましょう。



台風豆知識

台風とは

熱帯の海上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼びますが、このうち北西太平洋（赤道より北で東経180度より西の領域）または南シナ海に存在し、低気圧域内の最大風速（10分間平均）がおおよそ17m/s（34ノット、風力8）以上のものを「台風」と呼びます。

台風は上空の風に流されて動き、また地球の自転の影響で北へ向う性質を持っています。そのため、通常東風が吹いている低緯度では台風は西へ流されながら次第に北上し、上空で強い西風（偏西風）が吹いている中・高緯度に来ると台風は速い速度で北東へ進むのです。

【台風の大きさと強さ】

（資料：気象庁）

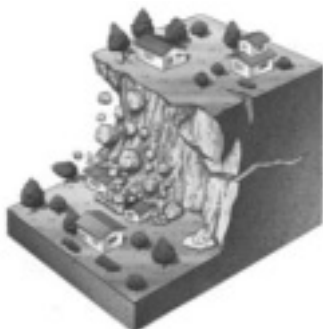
大 き さ		強 さ	
《 階 級 》	《風15m/s以上の半径》	《 階 級 》	《 最大風速 》
〈表現なし〉	500km未満	〈表現なし〉	17m/s(33ノット)以上
			33m/s(64ノット)未満
大 型 (大きい)	500km以上 800km未満	強 い	33m/s(64ノット)以上
			44m/s(85ノット)未満
超 大型 (非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s(85ノット)以上
			54m/s(105ノット)未満
		猛烈な	54m/s(105ノット)以上

油断は禁物

風水害の代表的な例としては、洪水、高潮、土砂崩れ、竜巻などが挙げられますが、ひとつの特徴として、地震災害などと異なり、台風や豪雨は天気予報などで事前に災害を予想することができます。天候の悪化とともに普段との様子の違いや前触れ（前兆現象）がみられることがあります。いつも前兆現象があるとは限りませんが、次のような状態が見られるときはすぐに避難し、公共の防災機関に通報しましょう。

がけ崩れ

- 崖からの水が濁る。
- 地下水や湧き水が止まる。
- 斜面のひび割れ、変形がある。
- 小石が落ちてくる。
- 異様な匂いがする。



土石流

- 山鳴りがする。
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる。
- 川の水が濁ったり、流木が交ざる。



地すべり

- 地面にひび割れができる。
- 井戸や沢の水が濁る。
- 崖や斜面から水が噴出する。
- 家やよう壁に亀裂が入る。
- 樹木、電柱が傾く。



注意しなければならないことは？

風が強いとき

- 台風の接近など、風が強くなってからの屋外での行動は危険です。外出は控えましょう。また、路上では、強風で看板が飛んだり、街路樹などが倒れたりする危険があります。近くの頑丈な建物に避難しましょう。
- 屋内では、風圧や飛来物で窓ガラスが割れ、破片が吹き込む危険があります。内側からガムテープなどを貼り、カーテンを閉めておきましょう。風が強いときは窓に近づかないようにしましょう。

大雨のとき

- 河原などでは、上流の豪雨による急な増水や土砂崩れの危険があります。雨のときには川などに近寄らないことが一番です。もし川に居るときに警報が聞こえたら、速やかに避難してください。車の運転は、視界が悪いうえに操作が利かなくなることもあります。できるだけ道路の水が少ない場所を走行し、ゆっくりと高台へ避難しましょう。
- 路上が浸水してきたら、高い建物へ避難しましょう。また、家屋浸水に備えて貴重品や衣類、家具などを高いところへ運びましょう。

避難するとき

助け合うことが大切

台風や豪雨は天気予報などで事前に接近を知ることができます。危険な情報があった場合、「危険な場所に住んでいる。」という認識を持ち、早め早めに避難することが命を守るための基本です。

また、高齢者の方や小さなお子さん、身体の不自由な方などはさらに早めの避難が必要です。自分や家族の力では限界があり万全とはいえません。犠牲者を出さないよう、周囲の人への声かけや、避難の際の介助など隣近所で協力し合うことが必要です。



いつもと違います

普段見慣れた場所も、増水などで水に浸かってしまうと景色が一変してしまいとても危険になります。杖や長い棒などを利用し、足元を確認しながら進みましょう。

また、避難するとき長靴だと水が入ってしまい、脱げたり重くなったりして歩きにくくなります。できれば紐でしっかり結べる運動靴で避難してください。歩行可能な水深は、腰の辺りまでが限界です。腰まで水に浸かるようであれば無理をせず高いところで救援を待ちましょう。



車では非難しない

車での避難は、風雨に体がさらされないから安全と考えますが、車が川に転落したり、水没して脱出できずに亡くなった事例があります。

また、タイヤの半分程度浸水するとブレーキが利きにくくなります。さらに、ドア上10センチから20センチまで水がくると水流がある場所では車が流される恐れがあります。路面冠水が始まったならば無理をしないのが得策です。



風水害にどう備える？

台風や豪雨は、正確な気象情報を収集し、予想される事態への対策をとることで、被害を最小限にとどめることができます。次のポイントを踏まえて事前に備えておきましょう。

家の周りを保全する

- 雨戸や屋根を補強し、アンテナはしっかり固定する。
- 鉢植えや物干し竿など、飛ばされそうなものは屋内へ移動するか固定する。
- プロパンガスボンベもしっかりと固定する。
- ブロック塀や外壁のひび割れ、亀裂は補強する。
- 側溝や排水溝は清掃し水の流れをスムーズにする。



非常持ち出し品の準備

- 避難勧告や指示が発令されたときに、すぐに動けるように貴重品や非常持ち出し品の準備、確認をする。

断水に備える

- 飲料水や食料を確保する。また、浴槽に水を張るなどしてトイレなどの生活用水を確保する。

停電に備える

- 懐中電灯や携帯ラジオ、予備の電池を準備しておく。

もしものときのために日頃から心がけること

大雨が予想されて実際に降りはじめたら、常にテレビ、ラジオや市防災無線などから気象情報を収集し、周囲の変化を敏感に捉え、大雨や強風などの状況から今後どういう被害が予想され、どのように対処したらよいか、よく考えて行動していくことが大切です。

1時間に20ミリ以上、または降り始めてから100ミリ以上になったら要注意です。風水害から生命と財産を守るには、事前に住んでいる地域の危険箇所や避難路などの情報を調べておき、早めに避難することが重要です。



また、各家庭で事前に災害時の避難について相談しておくことも重要です。大きな災害になると、各家庭での災害対策では対応しきれないので、近所同士での助け合いが必要となります。地域に自主防災組織が結成されている場合には、その活動のなかで具体的な避難時の活動方法を話し合うことです。

まだ組織がない地区においても近所同士で災害時の対応を相談するなど、いざというとき慌てずに行動できるようにしましょう。

いつ自分の地域で風水害が起こるか分かりません。もしものときのために大切なことは、日頃からの備えです。

常陸大宮市のホームページのトップページから災害情報がご覧になれます。

URL <http://www.city.hitachiomiya.lg.jp/>